

福岡県新産のシダ植物 3 種： シモツケヌリトラノオ・アミシダ・ホソバヤブソテツ

金光浩伸

〒 812-0055 福岡市東区東浜 1-5-12 いであ株式会社

はじめに

福岡県版レッドデータブックの改訂に向けた調査を進めている中で、これまで福岡県において分布することが知られていなかったシモツケヌリトラノオ、アミシダ、ホソバヤブソテツの生育を確認した。ここでは、その生育状況や保全における留意点について整理し、報告する。

生育状況・保全上の留意点

今回報告するシモツケヌリトラノオ *Asplenium boreale*、アミシダ *Thelypteris griffithii* var. *wilfordii*、ホソバヤブソテツ *Polystichum hookerianum* の 3 種は 2023 年 6 月 18 日に福岡県田川郡添田町の溪流沿いのスギ植林内で相次いで発見された。これら 3 種は、これまでに福岡県における標本記録の無いシダ植物種である（筒井 1988, 海老原 2016, 海老原 2017）。周辺植生は伐期に達したスギ植林地であり、同一の谷沿い約 200 m の範囲内で発見された。自生地の林床植生は特筆される様相を呈しており、福岡県 RDB 2011 において絶滅危惧 IB 類に選定されたホオノカワシダが優占種として約 200 m × 20 m の範囲内に 500 株以上群生し、同様に絶滅危惧 IB 類に選定されたオトコシダ、絶滅危惧 II 類に選定されたイヨクジャクも混生していた。新産となった 3 種の生育状況等の詳細について以降に整理する。

Aspleniaceae チャセンシダ科

Asplenium boreale (Ohwi ex Sa. Kurata) Nakaike

シモツケヌリトラノオ

本種は、国内に分布するヌリトラノオ類のうち、無性芽を形成しないことが特徴の種である（海老原 2016）。生育していた場所は、スギ植林内の溪流からやや離れた場所にある露岩上であり、約 8 m × 20 m の範囲に 138 個体が生育していた (Fig. 1)。成熟個体の葉身は 12–23 cm 程度であり、全ての個体は葉の先端に無性芽を形成していなかった。ヌリトラノオ類は雑種を形成することが知られているため（海老原 2016）、孢子嚢が成熟していた 10 個体について孢子の状態を調査し、孢子嚢あたり 64 個の定形孢子を形成していることを確認した (Fig. 1D and E)。また、本個体群は成熟個体から幼若個体まで様々な生育段階の個体により構成されており、孢子により盛んに増殖しているようであった。なお、本個体群の一端がヌリトラノオの個体群と隣接していたが、両種間の雑種シモダヌリトラノオは発見されなかった。

国内における本種の分布は、本州や四国地方を中心としており、九州における産地は少ない（海老原 2016）。更に、九州では分布が知られている全ての県において絶滅危惧種となっており、長崎県では絶滅危惧 II 類、大分県では絶滅危惧 IB 類、熊本県と宮崎県では絶滅危惧 IA 類に選定されている（熊本県希少野生動植物検討委員会 2019, 長崎県自然環境課 2022, 宮崎県レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会 2022, 大分県自然環境学術調査会 2023）。このように、シモツケヌリトラノオは九州において希少性が高いこと

H. Kanemitsu. 2023. New records of three fern species in Fukuoka Pref.: *Asplenium boreale* (Aspleniaceae), *Thelypteris griffithii* var. *wilfordii* (Thelypteridaceae), *Polystichum hookerianum* (Dryopteridaceae). *Nature of Kagoshima* 50: 105–108.

✉ HK: IDEA Consultants, Inc., 1-5-12 Higashihama Higashi-ku, Fukuoka 812-0055, Japan. (email: hironobu.kanemitsu@gmail.com)

Received: 23 November 2023; published online: 2 December 2023; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_050/050-021.pdf

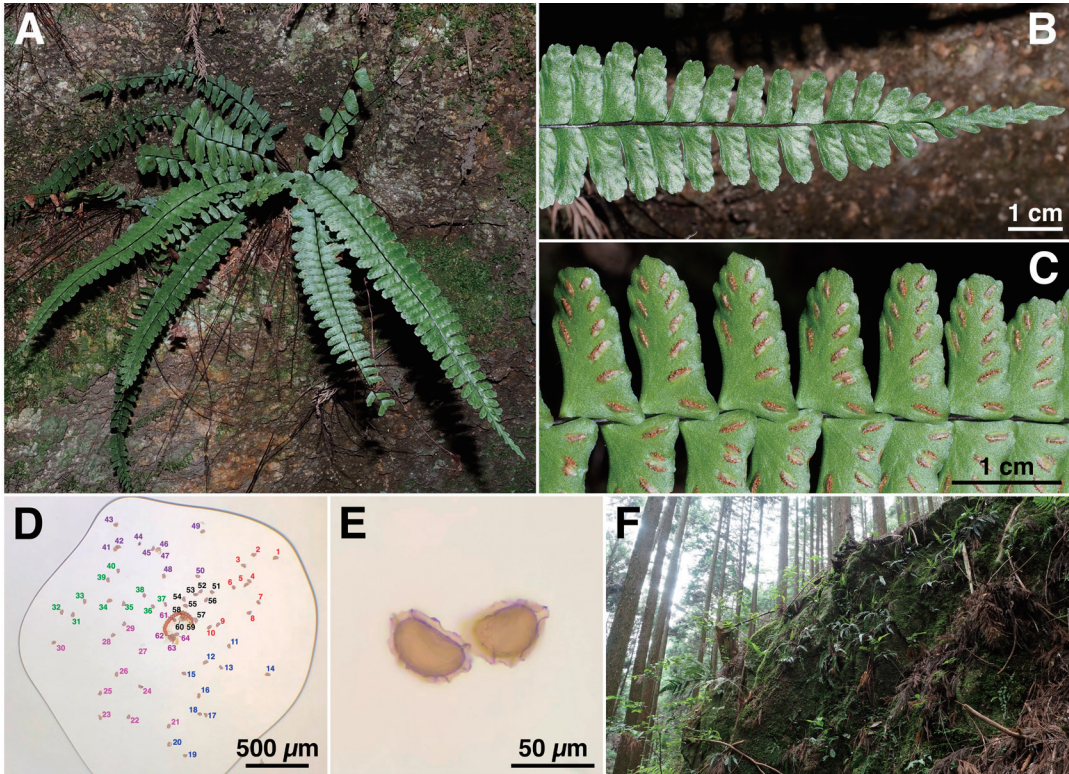


Fig. 1. *Asplenium boreale*. A: Plant, B: Apex of lamina, adaxial surface, C: Sorus, D: Spores in a sporangium, E: Spore, F: Habitat.

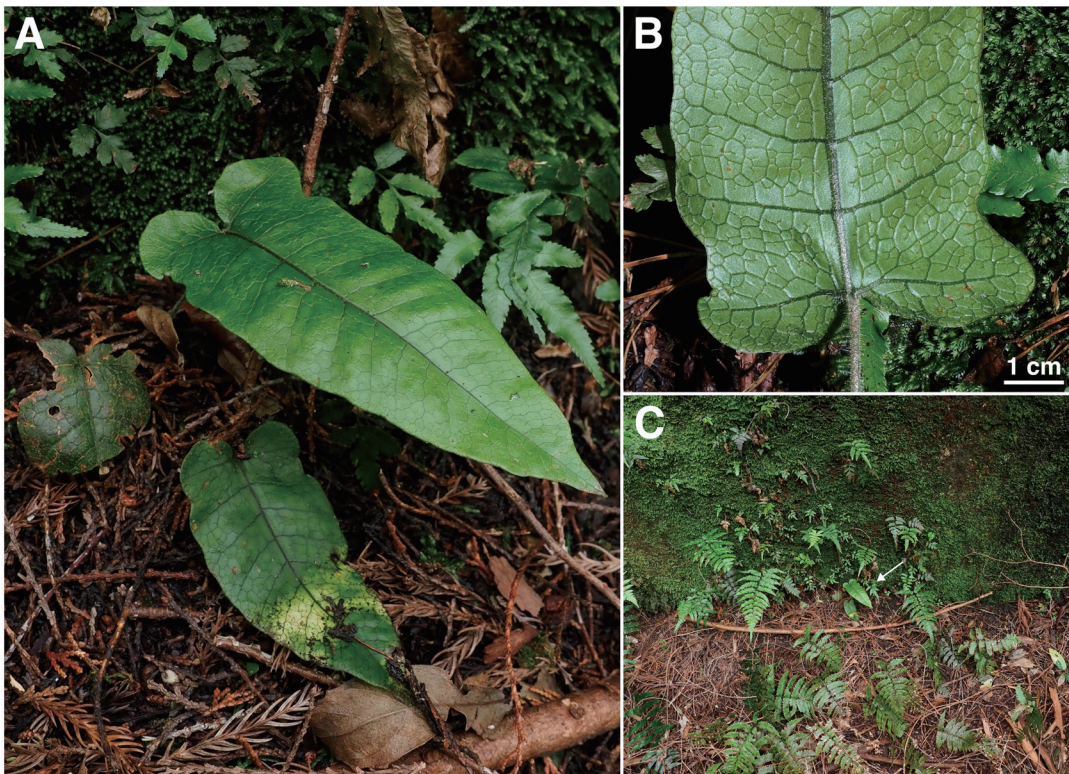


Fig. 2. *Thelypteris griffithii* var. *wilfordii*. A: Plant, B: Abaxial surface of lamina, C: Habitat.

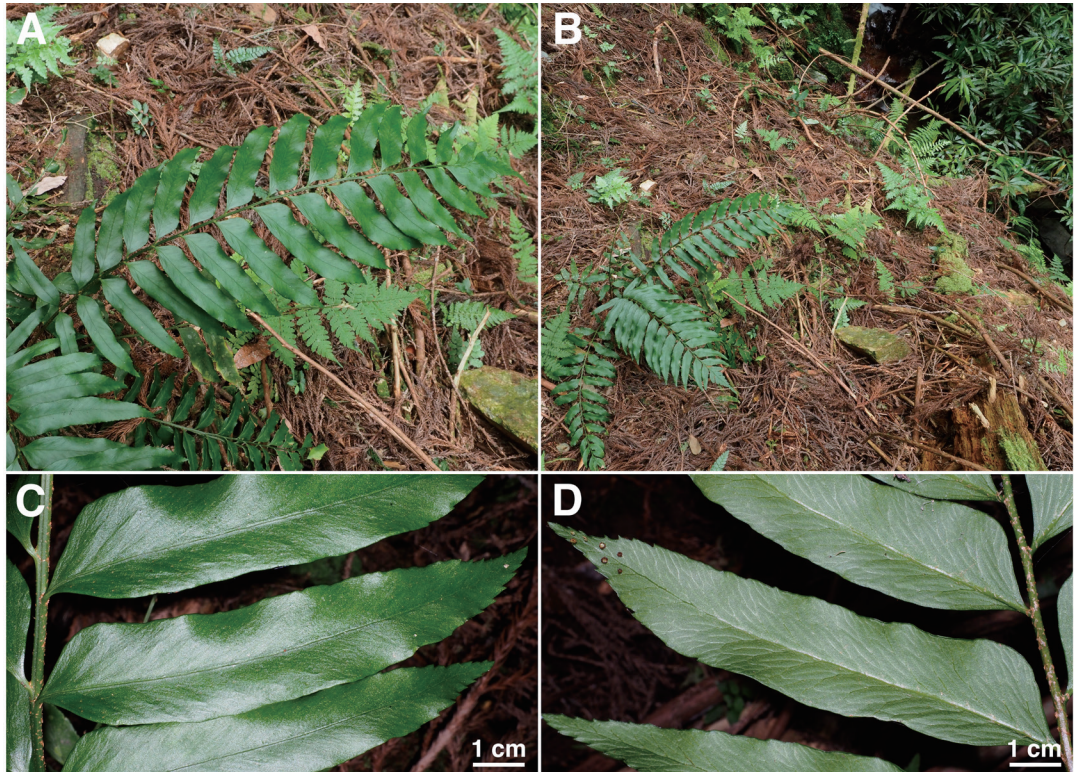


Fig. 3. *Polystichum hookerianum*. A: Lamina, B: Plant and Habitat, C: Adaxial surface of pinna, D: Abaxial surface of pinna.

から、福岡県においても絶滅危惧種として評価し、保全上留意することが必要である。

Thelypteridaceae ヒメシダ科

Thelypteris griffithii var. *wilfordii* (Hook.) C.M.Kuo アミシダ

本種は、国内に分布するヒメシダ科の中では独特な種で、単葉であることや遊離小脈のある網目状の葉脈を特徴とする（海老原 2016）。生育が確認されたのはスギ植林内の溪流付近にある岩壁下であり、1株のみ生育を確認した（Fig. 2）。葉は最大のもので約 12 cm あり、全て裸葉であった。周辺を広く調査したが、この個体以外は発見されなかったため、標本は採取せず写真による記録とした。

国内における本種の分布は、本州紀伊半島から四国、九州にかけての太平洋側の地域に偏っているが、九州では北部地域の佐賀県と長崎県にも分布することが知られており（海老原 2016）、佐賀県では絶滅危惧 I 類に選定され（佐賀県 2020）、

長崎県では絶滅危惧 II 類に選定されている（長崎県自然環境課 2022）。九州北部地域における本種の分布は稀であることから、福岡県においても絶滅危惧種として評価し、保全上留意することが必要である。

Dryopteridaceae オシダ科

Polystichum hookerianum (C.Presl) C.Chr.

ホンバヤブソテツ

本種は、形態学的分類によってヤブソテツ属 *Cyrtomium* に分類されていたが、近年の分子系統解析の結果を踏まえ、イノデ属 *Polystichum* に再分類されている（海老原 2017）。生育が確認されたのはスギ植林内の溪流付近の斜面であり、約 5 m × 10 m の範囲に 4 株が生育していた（Fig. 3）。このうち 3 株は葉身が約 15 cm の幼若個体であったが、1 株は葉身約 50 cm、葉柄約 30 cm の実葉をつけた成熟個体であった。

国内における本種の分布は山口県を北限としており（海老原 2017、山口県環境生活部自然保

護課 2019), 本種が多く分布する鹿児島県を除いて, 山口県, 熊本県, 宮崎県では絶滅危惧I類 (IA類またはIB類) に選定されている (熊本県希少野生動植物検討委員会 2019, 山口県環境生活部自然保護課 2019, 宮崎県レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会 2022). 熊本県においては記録地点が増加していることが指摘されており (熊本県希少野生動植物検討委員会 2019), 分布が北上している可能性もあるが, 本種の分布範囲は山口県まで及んでいることから, 福岡県にも従前から自生していた可能性が考えられるため, 保全上は留意する必要がある.

今回採取したシモツケヌリトラノオとホソバヤブソテツの標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 KAG, 北九州市立自然史・歴史博物館 KMNH へ納めた.

謝 辞

標本の寄贈でお世話になった田金秀一郎氏 (鹿児島大学総合研究博物館), 真鍋徹氏 (北九州市立自然史・歴史博物館) に感謝を申し上げる.

証拠標本

Asplenium boreale (Ohwi ex Sa.Kurata) Nakaike
JAPAN. Fukuoka pref., Tagawa-gun, Soeda-machi, alt. 243 m, 18 June 2023, *H. Kanemitsu* HK5705 (KNMH-

2023Y02AR01) HK5709 (KAG-184321), HK5710 (KAG-184322), HK5711 (KNMH-2023Y02AR02).

Polystichum hookerianum (C.Presl) C.Chr.

JAPAN. Fukuoka pref., Tagawa-gun, Soeda-machi, alt. 258 m, 18 June 2023, *H. Kanemitsu* HK5712 (KAG-184323).

引用文献

- 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス, 東京.
- 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. 2019. レッドデータブックくまもと 2019- 熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物 -. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本.
- 宮崎県レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会. 2022. 三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物. 宮崎県環境森林部自然環境課, 宮崎.
- 長崎県 県民生活環境部 自然環境課. 2022. 長崎県レッドリスト 2022. <https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/04/1648813265.pdf> (2023年11月11日参照).
- 大分県自然環境学術調査会. 2023. レッドデータブックおおいた 2022 ~大分県の絶滅のおそれのある野生生物~ 普及版. 大分県生活環境部自然保護推進室, 大分.
- 佐賀県. 2020. 佐賀県レッドリスト 2020 (植物編). <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00378355/index.html> (2023年11月11日参照).
- 筒井貞雄. 1988. 福岡県植物目録 1 シダ植物. 福岡植物研究会, 福岡.
- 山口県環境生活部自然保護課. 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. <https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/rdb/site/index.php> (2023年11月11日参照).